

山本ちゃんへ

山本ひまり

滋賀県・三〇・主婦

この頃ふっと考えてしまうねん。山本ちゃんが死んだらどうしようって。

昼間ひとりぼっちで部屋にいたら、おじいちゃんとおばあちゃんが死んじゃった時のこと思い出すんや。ほんまは、夢みてて、二人がコタツにあたってるとような気がして、「おばあちゃん」

て言いもって、部屋の戸あけてみたんやけど、誰も居いひんにや。会いたい 会いたい 会いたい。せやけど、死んでしまわはったんや。

それと同じやねん。

絶対、そんな日が、又来てしまうんや。まだ若いのに、そんな心配せんでもええって言われるんやけど、あかんねん。考えてしまうねん。そんななったら、どうしたらいいんやろ？ いやや いやや いやや いやや。

そや、ほんなら私が先、死んだらいいんや。そしたら悲しい思いせんてええ。会え

へんゆうて泣かんですむ。

せやけど、そうゆうたら、山本ちゃん怒るやろ？

「俺より先、死んだらあかんて」ってゆうてたもんなあ……。

一緒に死ねたらいいのにつて、ほんまに思うわ。心中とか事故にあうとかやないと無理やろなあ。

せやしな、お願いがあるねん！ どうしてもきいてほしいねん！

私よりな、一分。

一分でいいさかいに長生きして！ 私が死ぬときは、手、つないでて。いっつも寝るときしてるみたいに……。そしたら安心して逝けるねん。

な、これやったらいいやろ？

お願いやで、な？ 山本ちゃん。

*文中の「山本ちゃん」というのは主人のことです。「おじいちゃんとおばあちゃん」とは同居していた私の祖母のことです。